

---

# 私と彼と悲しみと

祐輝

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

私と彼と悲しみと

### 【Nコード】

N6517S

### 【作者名】

祐輝

### 【あらすじ】

街で出会った青年の不幸を取り除くため私（少年）は彼の手助けをすることに。

だが、待っていたモノは・・・

## 出会い

彼に会ったのは、私が中学生の時である。彼は競馬やパチンコで金を失い、友達もいなくなり、家族にも見捨てられていた。彼はまだ20歳である。18歳の時、彼は会社には行かず、バイトだけを始めた。いわゆるフリーターである。だが彼はそのバイトで手に入れた金をすべて競馬やパチンコなどのギャンブルに費やしてきた。ただ1度の大当たりもなく、1年で一文無しに……。だが私は彼の不幸を取り除きたかったのだ。私は人として、苦しんでいる人を見捨てるわけにはいかないと思った。彼もまだ若いから、やり直せるかもしれない。そう思って、私は彼に話しかけてみた……。

## 出会い（後書き）

まだ初心者ですが、頑張ります。  
次話の更新遅れるかもしれません。

## 彼

彼は少し驚いたようだが、嫌な目では見ず、気軽に呼応してくれた。私は君を助けたいと言ったら、彼は一体どういう事なのかわかっていなかったようだが、いろいろ考えた結果、彼は嬉しそうな顔をししながら、今にも死にそうな小さな声で、ありがとうと言っていた。

それから私は、親や友達、先生にも内緒で、彼にパンやおにぎりなどの食糧やお小遣（月に2000円くらい）の半分を渡すようにした。普段金をほとんど使わないから、軽く1万は持っていた。

## 秘密基地

昔、近くにある大きな公園に友達と一緒に秘密基地を作った覚えがあった。作った後にすぐ面白いゲームが出て、それをみんなでやり始めたから、その秘密基地は、ほとんど使わなくなつた。あれから約5年になる……。あの秘密基地がまだ残っていたのなら、彼の家に行けることができる……。そう思った。久しぶりにあの公園に行つて秘密基地を探してみた。そこには、あの時のままの秘密基地がまだ残っていた！やはり、この公園は広いから、さすがに見つからなかつたらしい……。

**秘密基地（後書き）**

読んでくれた方感謝です。

## 時は流れ

少しホコリっぽくなっていたが、秘密基地自体は全く壊れていなかった。そして彼をそこに住ませた。彼も安心していった。なぜなら、いつも外で野宿している時、よくイタズラをされていたからである。ここなら誰にも見つからないし、壊れない。二人にとって、ここは、すごく大切な場所になった。

彼はバイトをやめさせられ、一時はどうなるかと思っただが、彼も新たな職業に就くため、日々努力している。

あれから10年の年月が経った……。

時は流れ（後書き）

読んでくれた方、感謝です。

## 大当り

彼は私と 出会うまでは、毎日が絶望との戦いだったが、今ではそんな悲しみも消え果てて、明るい毎日を送ることができるようになった。彼も就職することができ、すごく嬉しそうだった。私もバイトで稼いだ5分の1を彼に渡してきたが、それも今日で終わりである。そんな中、彼は、これで最後にするよ、と言って、宝くじを買った。

翌日、新聞を見ると、昨日彼が買った宝くじの番号が載っていた。1等・・・1億円・・・そう新聞に書いてあった。その日から彼は私の前に姿を現さなくなった。秘密基地に行ってみた。だが、彼はいなかった。それどころか秘密基地は壊されていた。辺りを調べると、そこには1枚の紙きれが落ちていた・・・。

## 大当り（後書き）

読んでくれた方本当に感謝です。

## 悲しみ

その紙きれにはこう書いてあった。

この紙を読んでいる頃には俺はもう相当な金持ちになっただろうな。あと、お前の父さん、大変なことになってるぜ。by 幸運の持ち主

！？ 父さんが大変なことに！？私は急いで父さんに電話した。

・・・・・・父さんが・・・・リストラ・・・・！？・・・・

私は一人暮らしだ。毎月、父さんが会社で働いた金の半分と、バイト代で家賃を払ってきたが、父さんからの仕送りが来なくなった以上、家賃や水道代、電気代を払いきれなくなってしまった。就職しようとしてみたが、大学を出てない私に就職なんてできなかった。

私は借金にまみれた。友達に見離され、親にも見捨てられた。私はとうとう孤立した。ふと街中を歩いていた時だった。私の目の前に一人の中学生が現れた。

そう、あの時の私のような子が・・・・

## 悲しみ（後書き）

ここまで読んでくれた方本当に感謝です。感想書いてくれたらありがたいです！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6517s/>

---

私と彼と悲しみと

2011年4月24日12時47分発行